

渡部昇一・「時代」を見抜く力 ①

令和2年11月1日（日曜日）月次祭

こうとくにんげん塾 #271

人間の本性は革新政党によって変えられるものではない

革新政党が政権を取れば、当初は大いに張り切って同胞を傷めつけることも敢えてやって「革新の正義」を追求するであろうが、間もなく保守党の議員と同じような腐敗、あるいは更に大きな腐敗を起こすだろうと予想しておいた方が、人間をよりよく知っていると言えるかもしれない。少なくとも、保守ダニは三十年間犬の血を吸い続けて太っているが、革新ダニは三十年間の飢餓でやせこけ、政権に飛びついたら思い切り血を吸ってやろうと待ち受けている様子が見えなくもない。(P.26)

正統

世の中には「^{オースドクシイ}正統」と呼ばれるものがある。国際的にカトリック教会がそうだし、イギリスの中では英国協会や英国王室をそう呼んでよいであろう。日本では皇室がそうである。正統派とは語弊があるけれども伝統の古さによって満腹しきったダニのようなもので、もはや国民に害をなさなくなった統治者とも言えるかもしれない。従って正統派は必然的に保守的ということになる。革新派が常に革新的であろうとすれば恒常的不安定という望ましくない状態になる。(P.27)

田沼時代

浮世絵の黄金時代は徳川時代のいつ頃かと思い、調べてみた。そして鈴木春信、勝川春章、喜多川歌麿などは、すべて田沼時代という、極めて評判の悪い時代に活躍していることを発見した。そして「なるほど、浮世絵みたいな本来淫蕩なものは、腐敗と墮落の時代にボウフラでも湧くように出てくるのだな」と合点した。驚いたことには、杉田玄白らの『解体新書』や大槻玄沢の『蘭学階梯』が出たのも田沼時代、平賀源内がエレキテルの実験をやって人を煙に捲いていたのも田沼時代、与謝蕪村（俳人・画家）が活躍したのも田沼時代である。当然新しい疑問が生じてきた。こんなにも江戸文化らしい江戸文化が形成された時期が、どうして腐敗の極に達した「泥沼」時代などと悪口ばかりいわれるのだろうか。(P.56-57)

クリーン政治といわれるものの功罪

田沼時代の泥沼的汚職政治を^{はい}廃して、清潔な政治をほどこした教養ある政治家とい
うのが松平定信の一般的評価^{はい}のようである。なるほど松平定信は身分が高い。彼は
八代将軍吉宗の孫である。当時第一流の教養人である。^{わいろ}賄賂政治でない点において
清潔な政治家といってよいであろう。儉約^{けんやく}をすすめたのはそれ自体として立派なこ
とである。しかし、私が外国に居て母国を見る視点からすると、^{よくあつしや}日本文化の抑圧者^{よくあつしや}に
ほかならないように思われた。

定信の儉約奨励となるとなさらおかし。彼が贅沢として非難したことの中には、
いろいろ新しい工夫をした品物を作るということがある。^{くわい}創意工夫^{くわい}はいけないとい
うのだ。書物^{えぞうし}や絵草紙^{えぞうし}（絵入り娯楽本）や浮世絵、高級なお菓子もいけない。女の
装身具に金など使ってはいけない。庶民^{かみゆい}が髪結^{かみゆい}を頼んではいけない。髪結を仕事と
する者は着物を縫うとか、もっと役に立つ仕事につかなければならない…と^{さいげん}際限も
なく禁令が続く。もっと悪質なのは^{がく}学問の統制^{がく}である。いわゆる「寛政異学の禁」
である。朱子学を正学として、その他の学派の者が^{はんじゆ}藩儒^{はんじゆ}（藩に召し抱えられる儒学
者）たることを禁じたのだ。

定信はたった六年間ばかり政権の座にただけで、三十五歳の働き盛りで退かねば
ならなくなった。何だかんだといわれながら、四十九歳で第十代将軍家治^{いえはる}の御用人
になってから、六十八歳で老中^{ひめん}を罷免されるまでの約二十年間、特別に天変地異・
^{きが}飢餓^{きが}・大火の多かった時代を持ちこたえた田沼の政治力と比較すべくもない。定信
の政策のため、世の中は極端に不景気になった上に大量の失業者ができ、言論が不
自由で、出世の見込みはなくなり、^{ひと}人の世がつまらないものになった。 (P.58-60)

水野越前守の天保^{てんぽう}の改革は明らかに定信の真似である。贅沢の禁止、言論・出版・
演劇など、すべての文化活動の停止、特に^{かこく}苛酷^{かこく}な言論の弾圧がそれである。定信の
場合は彼自身が立派な修養人・教養人であるからまだ救われるところがあったが、
定信的政治を、定信の徳なくして行えばどうなるかのよい手本が天保の改革である
といってよい。

私が小学校の頃、父が警察に呼び出されて、家中の者が心配したことがあった。理由は、私の家で売っていた財布に金糸が入っていたので、法律に触れるというのである。日華事変（日中戦争）の頃にそんな法律があったらしい。その法律ができる前に仕入れてあったのを売ったので、家の者は警察に呼び出されてからそんな法律が出ていたことを実感したわけである。

この小さな事件は子供心にもひどく不愉快なものとして感じられた。なお一層悪いことには、そんなことまでして贅沢を禁止した政策の行方は何であったかといえ、もちろん太平洋戦争であり、原爆であり、敗戦である。贅沢品を攻撃したり、政治の腐敗を声高に叫ぶ勢力には気を付けろ、と私の個人的体験と、ささやかな歴史的知識はいつも耳もとでささやく。

ウォルポール内閣(18世紀のイギリスの首相)を腐敗しているといっって倒したのは、平和に飽きて戦争したくなった連中だった。田沼を腐敗していると弾劾した政権は異学の禁をやった。財閥と結びついている政党政治は腐敗しているといっって首相や大臣を暗殺した軍人たちは、国家総動員体制を作り、言論出版等臨時取締令を公布し、「贅沢はやめましょう」といっって無茶な戦争に突進していった。もう一つ、例を挙げておけば、ヒトラーがワイマール時代（民主的な時代）に終止符をうつ時も、それを腐敗の時代と規定したはずである。(P.62-63)

出典：「時代」を見抜く力～渡部昇一的思考で現代を斬る（渡部昇一・著、育鵬社）

渡部 昇一：昭和5年（1930）生まれ。英語学者、評論家。上智大学名誉教授。

平成29年（2017）死去。本書は『文科の時代』（1974）、『腐敗の時代』（1975）、『正義の時代』（1977）（いずれも文藝春秋）からの再構成。

今 後 の 予 定

11月15日（日曜日）正午 月次祭

12月 6日（日曜日）正午 月次祭

★感染症の拡大により急遽中止せざるを得ない場合は、ホームページにてお知らせします★

「<https://kotoku-jinja.jp>」または「こうとく神社 鎌ヶ谷」で検索

★鴻徳神社お知らせメール（月2回配信・無料）★

最新の行事予定ほか、をお知らせします。ホームページよりご登録下さい。